

第48号

令和6年(2024年) 3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

年頭にあたり「震」を「辰」に

同窓会副会長(専門部長代表)

船本 秀忠



同窓生みなさま、新年明けましておめでとうございます。今年は辰年、中国の『漢書 律曆志』では、辰は「ふるう、ととのう」を意味する「振」で、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形がととのった状態を表すと解釈されています。

ようやく、コロナもそれなりに収まり始め、みなさんが新たな活動に取り組みうと思われた矢先、元日の能登半島大地震のニュースが飛び込んできました。能登半島北部の輪島市側が、1分間という短い時間に約4メートルも隆起し、一方で、珠洲

市では津波の影響で集落が一瞬にして流され、内灘町では液状化現象により、土地が波打つ状況下にあります。お亡くなりになった方、家屋を失い避難されている方、集団疎開のような形で白山市で学ばなければならなくなった生徒などが数多くいるのも事実です。地下流体により水が活断層を刺激して、北西方向にズレたために起こったとはいえ、一瞬で生活基盤やライフライン全てが失われる、ある意味で「振」が「震」になってしまいました。

思い返せば、29年前の兵庫県南部地震がそうでした。それから、東日本大震災、熊本大地震…。日本列島は改めて生きていることを再認識し、自然に対する畏怖の念を抱かざるを得ません。激寒の地で被災された北陸のみなさまに、我々は何ができるのだろうと、改めて、自分なりにできる支援を考える必要があります。

さて、同窓会活動も、各支部活動やブロック単位での活動も徐々に動き始めました。春以降は、さらに、活動の輪を広げられたらと思います。同窓会活動は「辰」にしたいですね。

昨年末に岡山県備中高梁での東中国四

国ブロック研究会に出席し、年始には岡山会にも呼んでいただきました。昨年は、岩手支部のPTAや地域の方を巻き込んだ研究会に参加させていただきました。コミュニティスクール構想が定着してきていることを実感しました。また、この数年で、北海道支部や愛知県支部の活性化に関わらせていただきました。

その土地土地の同窓生の活躍や研究発表を聞くにつれ、また、お酒を酌み交わすにつれて、同窓生の温かさに触れることができ、優秀な方々が地域で教育に邁進し、貢献されてきたことを知り本当に勉強になりました。

ポールラングランが生涯教育を提唱して久しいですが、学生からのマスターや現職の会員のみなさんは勿論のこと、退職されたからも、セカンドステージで学び続ける兵庫教育大学大学院同窓生として、これからも奮闘していきましょう。

みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。今年の夏は盛岡大会です。盛岡でおいでできることを楽しみにしています。

ご挨拶

兵庫教育大学 学長

加治佐 哲也



大学院同窓会の皆様には、平素より本学の教育活動や研究活動に多大なご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

上げます。
すでにお知らせしておりますように、兵庫教育大学は、文部科学大臣から教員養成フラッグシップ大学に指定され、Society 5.0に対応できる教員を養成するプログラムの研究開発に全学をあげて取り組んでおります。

これまでのものを全面的に改定して新しい教員養成スタンダードがつくられました。これをもとに新設された13科目(21単位)が、教育職員免許法施行規則の特例として、令和6年度の学部新入生から実施されます。教師の連携・協働、インクルーシブ教育、学習観・授業観の転換、EdTech、教育データサイエンス、STEAM教育を内容とするものです。本学学部の教職課程カリキュラムが大きく変わるのみでなく、国の教職課程の基準の改定にも繋がることになっていきます。こうした内容を反映した大学院カリキュラムもつくられます。

大学の授業が、コロナ禍を受けて、対面、同期・非同期のオンライン、VOD、対面で受けるか、オンラインで受けるかを学生が選択できるハイフレックス型など、多様な方法で行われるようになったことにより、学生の学びのスタイルが多様になっています。大学院では、オンラインやVODを多く活用することでほぼ通学を要しないフレックス・クラスに入學して、勤務しながら学ぶ学生が増えています。また、対面に加えてオンラインなどを活用することで昼間クラスの学生の教育と研究はさらに深化し、充実しています。

このように、本学は時代の求める新たな学びづくりに果敢に取り組んでおります。大学院同窓会の皆様にはこのことをご理解いただき、今後とも兵庫教育大学への協力とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

ブロック活動の紹介(14)

東中国・四国ブロック

東中国・四国ブロック長

鷲見 寛 幸(鳥取)



平成25年11月に愛媛県松山市に於いて、第1回東中国・四国ブロック研修会を開催しました。以後コロナ禍の中断はありましたが、各県持ち回りでブロック研修会を行っています。第5回までは愛媛県・岡山県・鳥取県の3支部の輪番で毎年開催しておりましたが、令和元年第6回ブロック研修会より高知県支部の参加を得て、新たなメンバーを加え交流の幅を広げることができました。

令和5年12月の岡山県支部による第8回研修会は、高梁市に於いて開催しました。高梁市のギガスクール、高校の魅力化についての説明の後、石村嘉成展「色をまとう動物たち」を鑑賞しました。続いて幕末期の儒家・陽明学者の山田方谷の碑を巡りながら、その業績や教えを学びました。

今回のブロック研修会は、愛媛県、岡山県、鳥取県、高知県、徳島県の会員と船本同窓会副会長の参加で行うこと

ができました。高梁国際ホテルでの懇親会では、大いに盛り上がりました。翌日は希望者を募り、雲海に浮かぶ「天空の山城」として有名な備前中山城を見学しました。来年のブロック研修会は高知市で行う予定です。

総会の中で、高知県支部より令和7年の第44回同窓会総会・研究大会を高知市で開催したいという意見が出ました。協議の結果、ブロックで高知県での開催の後押しをしようということで意見がまとまりました。開催することで高知県支部とブロックのさらなる活性化につながるものととらえております。令和5年に大阪市で開催された第42回同窓会総会・研究大会では、3支部合同開催という新たな手法を示していたいただきました。今後この大会を参考に準備を進めてまいりたいと考えております。



ブロック研修(高梁市歴史美術館にて)

支部活動の紹介(4)

北海道支部

北海道支部長

水野 和 男(北海道)



北海道支部はここ数年、支部活動の活性化に資する取り組みを進めています。具体的には、まず、全会員に毎年ダイレクトレターを送付し、北海道支部活動の認知を高めています。

主たる活動としては、主に札幌市で毎年開催している支部研修会が挙げられます。直近では、昨年3月15日に札幌市のホテルライフォート札幌にて開催しました。研修会の講師は、北海道支部の顧問である北翔大学の山谷敬三郎学長にお願いしました。山谷学長は嬉野賞の受賞歴もあり、研究者としても実績を残されています。講演タイトルは「教育におけるコーチング」で、教育現場や教師に必要なコンピテンシーとして、理論と実践を生かすことが重要であると提唱されました。

講演のあとは、参加者全員が大学院の学びやキャリアを活かした現在の活動について意見交換を行い、場を変えて交流

会を開催しました。

この研修会は、可能な限り対面で開催しています。様々な分野で活躍している支部会員や大学院教員を講師に招き、学びを広げ深めているほか、参加会員同士の活動報告や意見交換を行い、さらに交流も図るなどネットワークを活性化させています。

支部会員同士が認知しあい、連携協力しながら相互の学びを展開しています。同じ大学院を卒業したものが、北海道を舞台として学びを活かし、地域に貢献できる支部活動を進めています。

令和6年度 同窓会総会 第43回 全国研究大会 【盛岡大会】(ご案内)

- ・日時：令和6年8月3, 4日(土・日曜日) 13:00～
- ・会場：『サンセール盛岡』盛岡市志家町1-10
- ・開催方法：ハイフレックスを予定
- ・情報交換会、巡検(盛岡市内を散策)

大会期間中、「盛岡さんさ踊り(祭り)」と重なっておりますので、宿泊予約はお早めに！

お問い合わせの上、奮ってご参加下さい。

令和5年度 兵庫教育大学大学院 同窓会総会・全国研究大会「大阪・奈良・和歌山大会」

令和5年8月5日(土)大阪府教育会館(たかつガーデン)において、大学院同窓会総会・全国研究大会「大阪・奈良・和歌山大会」を開催しました。4年ぶりに会場参加のみの開催となりました。

今回は、3支部の共同開催という新しい形の大会となり、今後の全国大会開催のモデルケースとなりました。

参加者は、総勢83名でした。

大会実行委員会 挨拶

大会実行委員長
樋口 洋三



令和5年度兵庫教育大学大学院同窓会・全国大会(大阪・奈良・和歌山大会)を大阪府教育会館(たかつガーデン)におきまして、加治佐哲也学長をはじめ、多くのご来賓の皆様のご参加を頂き、久しぶりの対面方式で開催することができ、大変うれしく思っております。

今大会は「学心研道」の理念をもう一度再確認したいと思いました。ご参加頂

いた全国の同窓生の皆様にとつて、大変知的な刺激を受ける場になったのではないかと思います。兵庫教育大学の改革・発展する姿を想像することができましたし、三支部の今日的な課題からの提案・発表、さらに若い学生さんの紙芝居での提案は素晴らしいものでありました。

情報交換・巡検におきましては、全国各地から参加された皆様との友好・絆を一段と確かめあう場となりました。

ご尽力頂きました皆様に感謝申し上げます。

大会副実行委員長
村田 卓生(大阪)



第42回全国研究大会(大阪・奈良・和歌山大会)を無事終えることができ、関係者の皆様には厚くお礼申しあげます。

今回開催地区として、3府県合同で臨ませて頂きました。前回の「大阪大会」で協力し合ったことが縁となり、以後3府県の交流がずっと続いてきたからです。このことを基にして、各府県の特徴や

特色を生かした研究を発表したり、趣向を凝らした情報交換会で盛り上がった、ガイド知識豊富な巡検で歴史文化に触れたりすることができました。

大阪地区の研究発表では、発表者とフロアーとの「掛け合い」を取り入れ、加治佐学長から「大阪らしい発表だった」と、お褒めの言葉を頂きうれしい限りです。

全国の同窓生に向け、3府県からの発信もでき、実り多き大会となったこと、心より感謝いたします。

大会副実行委員長
岸本 秀章(奈良)



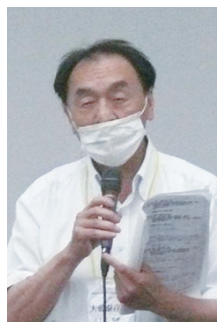
今年は「観測史上」という言葉が毎日聞かれる程の暑い夏になりました。そのような中、令和5年度大学院同窓会総会・全国研究大会を大阪・奈良・和歌山の3府県で対面・共同開催することができました。準備の段階から大阪・和歌山両支部の皆さんにお世話になりつつなして、せめて巡検はという思いで当日を迎えました。巡検には19名の参加者があり、興福寺の国宝館等を見学しました。

国宝館の一番の見所は、阿修羅像で、その像は8体いる八部衆立像の中の一体です。多くの国宝を目の当たりにし、多くの感動を与えてくれました。その後、猿沢池界限を散策した後、昼食をとり

ながらの交流会を行いました。

今回、参加できなかった皆様も機会があれば是非奈良にお越しください。最後に参加いただいた会員の皆様、本当に暑中有難うございました。

大会副実行委員長
大前 泰彦(和歌山)



大会終了後、知人の参加者に感想を尋ねてみました。彼と彼女は全国大会参加は初めてだったのです。すると、「すごい大会で大変勉強になりました。全国各地の先達の先生方に直接触れ交流できました。」と熱く語ってくれました。

また、勤務先の同僚(兵教大修了生ではない)に大学院同窓会に参加した旨を伝えると、「それって研究大会なのでしょう!」と即座に返ってきました。会員はもちろん、会員外の方でも、我が全国同窓会は単なる懇親会ではなく「研究大会」と捉えられているようです。有難くもうれしい限りです。今回は3支部合同形式であったため、実践研究の交流・学びがさらに広がったように思います。

参加された方々の長時間集中傾聴され熱心に質疑される(高齢化にもかかわらず)お姿に接することができ、意義ある暑い夏の日を過ごせました。苦学求道してきた「同窓の絆」を体で感じる事ができました。

大会事務局長 雲井 稔



団結や連帯は掛声だけでできるものではなく、時間と空間を共有し、共に汗する中ではじめて生まれてくるものではないでしょうか。「しんどかったけど、やって良かった」というのが、全国大会を終えた現在の心境です。集まるのが難しいコロナ禍での準備期間中、愚痴も言わず各人の役割を見事に果たしていただいた実行委員の団結の賜物です。

全国大会の開催にあたり、コンセプトとして次の2点を掲げました。①全国大会として、新しいスタイルを提案したい。②全国大会がこの支部でも開催できるよう可能な限りシンプルな内容にしたい。

試行錯誤の結果、大阪・奈良・和歌山の3支部(近畿②・③ブロック)の協同開催としました。実践研究発表については、一方通行の発表ではなく参加者との交流を志向しました。いかがでしたでしょうか。

最後に、今回全国大会を開催させていただいたことに心から感謝し、加治佐哲也学長様をはじめ大学の先生方、また、同窓会本部ならびに役員の皆様、さらには、ご参加くださいました諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

学長講和

「兵庫教育大学の新しい取組」

兵庫教育大学

学長 加治佐 哲也氏



表彰式に続いて、加治佐学長から挨拶を兼ねてご講話をいただきました。

絶え間なく激動する社会の中で、時代の変化を実感するこの頃です。兵庫教育大学は、教員養成フラッグシップ大学として、日々教育内容の進化充実に邁進しています。

時に感じますのは、外部との連携の大切さです。教員養成を主眼とするわが大学では、大学のみならず、初等・中等の各学校、さらに公的機関や社会とのつながりが必須です。

大学の教育方針として、自律した学習者を育てる教員の養成プログラムを立ち上げ、アジャイル型手法を導入したカリキュラムを開発してきました。教員養成スタンダード構造図に示したように、常に学び続ける教師を育てたいと考えています。

また、昨今のコロナ禍で、オンライン授業と対面授業を有効に組み合わせることも大切な課題となっています。

さらに、兵庫教育大学の大きな特色である現職教員の再教育の場としてのあり方の進化も重要な課題です。現職教員の学ぶ機会を増やすための現職派遣や修学休業制度の充実、フレックススクラスの拡充が欠かせません。そのためには、大学院生の募集の働きかけと同時に、現職教員研修プログラムの開発と充実が何より重要です。その前提として、国の教員研修プラットフォームへの登録が予定されています。

大学の基盤としての学部の充実を目指し、学部生の確保にも力を入れています。受験生へのアピールとしてのスタートガイドをHPに設けたこともその一環です。



【ご来賓】

兵庫教育大学 学 長	加治佐哲也 様
〃 理事・副学長	吉水 裕也 様
〃 理事・副学長	須田 康之 様
〃 副学長・事務局長	田中 賢一 様
〃 副学長	尾田 博明 様
〃 教育研究支援部長	高橋 信雄 様
〃 附属小・中学校長	富田 明德 様
〃 院生協前期会長	小林 裕大 様



令和5年度兵庫教育大学大学院
同窓会総会・全国研究大会【大阪・奈良・和歌山大会】

教育実践発表Ⅰ（大阪府支部）

「小学校低学年における多文化共生教育の可能性と課題」

立命館大学 嘱託講師

山田 文乃



義務教育段階の公立学校において外国につながる子どもが急増し、国も日本語指導や就学に関する法律等を出し、対応を試みている。一方、大阪は、同和教育／解放教育の一環として在日外国人教育を1970年代から実施しており、「多文化共生教育」の語の初出の地でもある。人間の当たり前の権利として、広くマイノリティの人権尊重を捉えることができる土壌と、学校教育での実践を可能にする素地が脈々と受け継がれている。

大阪の小学校低学年における多文化共生教育の実践を報告する本発表では、堅い文章表現だけでは伝わりにくい教師と子どもとの対話の様子から、多様性を包摂できる学校文化の構築や学級経営方略、グローバル化す



る今を生きる子どもに必要な力を育む秘訣を感じ取れるよう工夫した。子どもとの反応から、多様な背景を持つ仲間とともに学ぶことをよさと捉え、クラスや学校、その一員である自分自身に対する肯定感を高めることが推察された。

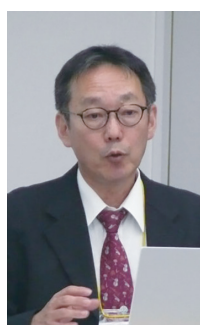
教育実践発表Ⅱ（奈良県支部）

「中学校『特別の教科 道徳』の授業設計

初任者指導教員の視点から」

葛城市立新庄中学校 指導教員

三宅 康文



中学校の教諭時代は、奈良県の社会教育・道徳教育の両研究会に永く所属し、多くの先生方と共に授業開発を行ってきた。現在は初任者指導教員として、週五日毎日初任者の先生方と中学校現場で過ごしている。

小学校と異なり、中学校は教科担任制である。教科の特異性はあるが、授業づくりの基礎基本は同じである。今回の発表では、初めて「特別の教科 道徳」を行う初任者教員が、授業設計をどのように行えばよいのかを提案した。道徳の時間を構成する三大要素として、教材・教師の指導（方法）・生徒がある。料理を行うときに「材料七分の腕三分」とよく言われる。生徒が本気で考え、ねらいにせまる魅力ある道徳の授業

を行うために有効な教材と、授業方法を述べた。

あわせて、中学校で道徳の授業をつくるための前提条件を示し、これまでの道徳の時間の指導の課題について再度確認した。

3 本日の発表の流れ

道徳的価値の自覚を深め、中学生の心に響く道徳の時間の指導を行うためには、以下の(1)～(5)を念頭に教材を提示し、授業を行うことが必要であることを明らかにする。

- (1) 生徒にとって有効な教材とは何か。その条件を提示する。
- (2) 授業のねらいを明確にできる教材と、そのための手立てを述べる。
- (3) 1時間の授業を通して、自分事として考える教材を活用する。
- (4) 道徳の授業を行うための前提条件を考える。
- (5) 現行の中学校道徳の教科書を比較検討し、正副教材として全てに採用されている「足袋の季節」「二通の手紙」の授業の提案を行う。

教育実践発表Ⅲ（和歌山県支部）

「つながろう湯浅！」

人と人がつながる家庭教育支援」

湯浅町立山田小学校 校長

長田 和浩



兵庫教育大学大学院で2年間学ばせていただき、修了後はすぐに湯浅町教育委員会が指導主事の職につくことになりました。今回の発表では湯浅町が行っている取り組みについて報告をさせていただきました。

湯浅町では、平成20年度からSSWを配置し、関係機関と連携しながら、福祉的な立場から学校や家庭に対し、問題の解決に取り組み、翌年より、家庭教育

支援チームを設立し、訪問活動を通して、学校・地域・家庭がつながり、人と人がつながる家庭教育支援を目指して取り組みを進めてきました。

子供や保護者、地域とつながり、それぞれの専門分野の機関と連携しながら関係機関につなげることが必要で、地域や学校から見えないといったセーフティーネットから抜け落ちる子供や家庭が無くなるように、網の目のようないろいろな取り組みが、今後ますます必要になってくるのではないかと思います。

本年は対面による発表で、質問もあり、とても刺激をいただきました。



紙芝居実演

帝塚山大学教授・徳永加代（大阪府支部）による学生指導



令和5年度 教育実践研究活動等にかかる表彰受賞者

役員推薦

賞	氏 名	主な教育実践研究活動	専攻・コース・期
嬉野賞	酒井 喜八郎 (愛知県)	- 南九州大学人間発達学部子ども教育学科 准教授 - 名古屋市立小学校教員として社会科教育により主体的に考え自主的に考え自主的に行動する態度を育てることに努め、成果を収めた。 - 自身の実践を教育研究会、教育学会、教育専門誌で発表することにより、多くの教員の指導方法の創意工夫に貢献した。とりわけ名古屋市社会科教育研究会でともに活動した教員達のリーダー的存在となった。 - 本学大学院修了後は、名古屋市の社会科教育活動の中心として教育課程の推進に努め、名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程の単位取得満期退学後は南九州大学人間発達学部子ども教育学科で教育法学の研究と教員養成に携わっている。	教科・領域教育専攻 社会系コース 13期
嬉野賞	樋口 洋三 (大阪府)	2002年4月より3年間、文部科学省より中国・天津日本人学校校長として派遣され、学校移転や日本人学校としては例を見ないという部活動の創設等にも尽力した。 - 帰国後、日本人学校校長経験者として、文部科学省主催の各種研修会や講習会の講師を永年勤めている。 - これまで大阪市教育センター教育指導員として、新任や若手教員の指導にあたる。また、現在は大阪市教育支援センター指導員として、悩みや困難を抱える多くの児童生徒に寄り添い、課題解決への支援を行っている。 - 今夏開催される「第42回全国大会」における大会実行委員長に人望厚く推挙され、大会の成功に向けてリーダーシップを発揮している。	教科・領域教育専攻 生活・健康系 (保体) コース 6期

教育実践研究論文(奨励賞)

氏 名	論 文 の テ ー マ	専攻・コース・期
西井 孝明 (三重県)	知的障害特別支援学校における各作業種に対応した作業班別「安全点検確認シート」の開発	障害児教育専攻 21期
柳瀬 賢佑 (兵庫県)	多忙な中学校現場における教師のリフレクションを促す持続可能な教育実践(研修)の提案 ～教師の「対話」に焦点を当てて～	人間発達教育専攻 教育コミュニケーションコース 41期
伊藤 良介 (兵庫県)	小学校総合的な学習の時間における I C E モデルを活用した自己有用感を高めるキャリア教育の授業改善	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース 39期



令和4年度 退 任 役 員

(右掲)

同窓会役員をお務めいただき、本会の発展にご尽力下さいました次の方々が、令和4年度末をもって役員を退かれました。本部活動はもとより、支部活動の牽引役としてその功績は非常に大きいものです。

これまでのご貢献に深く感謝の意を表します。

また、一定の要件を満たされた方には感謝状と記念品をお贈りします。

氏 名	支部	期	退任時の役職
棚澤 実	北海道	20	北海道・東北ブロック理事
千田 健一	宮 城	7	北海道・東北ブロック理事
松尾 鉄城	埼 玉	1	関東ブロック理事
荒井 豊	埼 玉	2	関東ブロック理事
林 信行	石 川	26	石川県支部代表
猪瀬 洋一	長 野	12	長野県支部代表
玉木 隆	岐 阜	2	組織部長、中部・東海ブロック理事
幸脇 直久	岐 阜	2	中部・東海ブロック長、理事
鈴木 均	愛 知	4	愛知県支部代表
尾崎 文雄	兵 庫	11	近畿①ブロック長、理事
横内 恵	兵 庫	6	近畿①副ブロック長、理事、兵庫県支部代表
竺沙 敏彦	京 都	20	近畿①ブロック理事
北村 純一	兵 庫	28	近畿①ブロック理事
五百住 満	兵 庫	30	近畿①ブロック理事
岡 みゆき	兵 庫	32	近畿①ブロック理事
唐錦 秀和	奈 良	14	近畿③ブロック理事
後藤世志哉	宮 崎	17	宮崎県支部代表

令和5・6年度 兵庫教育大学大学院同窓会役員

会 長		新居 寛 (兵庫)				支 部 代 表			
副 会 長	専門部長代表	ブロック長代表	院生協代表 (前期／後期)		事務局長	水野 和男 (北海道)	村瀬 敏則 (京都)		
	船本秀忠 (兵庫)	渡邊哲郎 (山口)	小林裕大 (兵庫) / 村上優奈 (兵庫)		山口文和 (兵庫)	西澤 亨一 (青森)	船本 秀忠 (兵庫)		
専門部長	組織部長 (中部・東海)	総務部長 (近畿①)	研究部長 (近畿③)	会計部長 (東中国・西国)	広報部長 (西中国)	山本 勉 (岩手)	尼子 尚公 (兵庫)		
	梶原正史 (山梨)	船本秀忠 (兵庫)	大前泰彦 (和歌山)	佐々木勇 (岡山)	大畑和典 (広島)	渥美 寿彦 (宮城)	仲島 尚子 (兵庫)		
監 事	監事長	監事	監事	監事	高橋 正規 (秋田)	村田 卓生 (大阪)			
	北山鎮道 (岡山)	田中嘉明 (兵庫)	中國大二郎 (大阪)	毛利直巳 (島根)	本田 礼 (山形)	井上 温子 (大阪)			
相談役	武 泰稔 (岡山)	吉田 廣 (兵庫)	大橋 博 (兵庫)	川村庸子 (岩手)	人 選 中 (福島)	和田 博之 (大阪)			
ブロック	ブロック長	副ブロック長	理 事						
	北海道・東北	小山文明 (岩手)	水野和男 (北海道)	村石好男 (宮城)	後藤あゆみ (北海道)	柏崎勇人 (秋田)			
関東	清水政義 (東京)	小川 孝 (埼玉)	野田不二夫 (東京)	向井隆盛 (埼玉)	牧 雅英 (千葉)	野田不二夫 (東京)			
	中部・東海 (組織部)	森 社 (岐阜)	下條英子 (福井)	松村敏幸 (岐阜)	勝俣得男 (静岡)	山田達夫 (静岡)			
近畿① (総務部)	仲島尚子 (兵庫)	村瀬敏則 (京都)	八木真由美 (兵庫)	大中美幸 (兵庫)	西井一雄 (兵庫)	碓井 欣一 (新潟)			
	近畿② (研究部)	雲井 稔 (大阪)	徳永加代 (大阪)	村田卓生 (大阪)	和田博之 (大阪)	松田雅代 (大阪)			
近畿③ (研究部)	岸本秀章 (奈良)	大前泰彦 (和歌山)	山中賢司 (奈良)	三宅康文 (奈良)	西端幸信 (和歌山)	人 選 中 (石川)			
	東中国・西国 (会計部)	鷺見寛幸 (鳥取)	野村ゆかり (高知)	藤原彰二 (鳥取)	小田幸伸 (岡山)	後藤陽三 (愛媛)			
西中国 (広報部)	渡邊哲郎 (山口)	津田和也 (広島)	藤原尚幸 (島根)	勝田 章 (島根)	兼房高広 (広島)	人 選 中 (長野)			
	九州・沖縄	草場聡宏 (佐賀)	船津勇一 (大分)	藤本岳大 (福岡)	川崎健二 (佐賀)	中西 茂治 (岐阜)			
※ 青字は新任 緑字は再選出役員 ゴシックは兼務(再掲)						平戸 健吉 (長崎)			
						神尾 義敬 (静岡)			
						加藤 有悟 (愛知)			
						榊原 貴久 (名古屋)			
						大森 雅彦 (三重)			
						松山 武史 (鹿児島)			
						西谷 淳 (滋賀)			
						津留 一郎 (沖縄)			

兵庫教育大学大学院同窓会 令和4年度(第41期) 会計決算報告書

自 令和4年6月1日 ～ 至 令和5年5月31日

【一般会計】

〔収入の部〕

科 目	予算額(円)	決算額(円)	増減(円)	摘要
会 費	3,839,120	3,854,120	15,000	令和4年度会費 257名
繰越金	3,291,017	3,291,017	0	第40期会計より繰越
共同研究経費	1,200,000	1,128,050	△ 71,950	共同研究経費の全額 16件
雑収入	0	41	41	預金利息
収入合計	8,330,137	8,273,228	△ 56,909	

〔支出の部〕

科 目	予算額(円)	決算額(円)	残額(円)	摘要
総務部	625,000	468,785	156,215	
	役員会費	600,000	466,915	役員会旅費(6,11,5月役員会)
	事務費	25,000	1,870	両替手数料
研究部	280,000	160,400	119,600	
	印刷製本費	250,000	159,960	教育実践研究論文集(vol.4)
	事務費	30,000	440	振込手数料
広報部	260,000	218,724	41,276	
	会報印刷費	250,000	218,284	同窓会報47号
	事務費	10,000	440	振込手数料
組織部	440,000	337,673	102,327	
	ブロック会議経費	100,000	54,280	2ブロック
	支部活動助成金	300,000	277,893	11支部
事務局	40,000	5,500	34,500	振込手数料
	渉外費	15,000	0	
	印刷費	120,000	70,270	同窓会案内 総会関係冊子等
総会運営費	200,000	19,480	180,520	院生協総会出席旅費等
	旅費	100,000	63,400	感謝状 記念品 Zoom契約料 等
	事務費	500,000	600,000	△ 100,000
院生協活動助成費	100,000	100,000	0	愛知50万円大阪・奈良・和歌山10万円
兵庫教育大学研究助成金	1,000,000	1,000,000	0	院生協活動の補助
共同研究経費	1,200,000	1,128,050	71,950	一人20万円×5名
合計	4,840,000	4,166,782	673,218	16名
予備費	3,490,137	0	3,490,137	予算の予備費は (収入合計)-(支出合計)で計上
支出合計	8,330,137	4,166,782	4,163,355	

収支決算合計 8,273,228 円

支出決算合計 4,166,782 円

差引残高 4,106,446 円

差引残高は、第42期一般会計の収入
(繰越金)に充てます。

【運営積立金】

運営積立金は、同窓会活動の継続および必要
不可欠な出費に備えて平成29年6月より定額
預金(10年満期)として預けているものです。
現在高

科 目	金額(円)	摘 要
貯 入 額①	10,190,000	平成29年6月5日 預入
貯金利子②	6,022	貯金日～令和5年5月 までの利子
税 額③	922	
税引後 元利合計金額 (①+②-③)	10,195,100	

運営積立金は、次年度も継続して預けます

《 お問合せ 》

兵庫教育大学大学院同窓会事務局
兵庫教育大学修了生・卒業生連携センター
〒673-1494
兵庫県加東市下久米942-1
電話 0795-44-2406, 2375
FAX 0795-44-2376
(メール)
office-dosokai@ml.hyogo-u.ac.jp

同窓会総会・全国研究大会

参加者 83名



情報交換会

参加者 60名



巡 検

(奈良公園～興福寺) 参加者19名

皆様のおかげで楽しく
有意義な2日間
となりました

近鉄奈良駅前
行基像



興福寺五重塔前にて



猿沢池

興福寺南円堂



暑い中、お疲れさま！



興福寺国宝館前にて